

8月20日 鶴見北地域活動委員会 (大阪市) つるみ店集会所 参加8名 (うち子ども2名)

親子で楽しむ♪モール工作&簡単!! ビーズアクセサリー作り

～みんなと一緒に頑張れました!!～

清原株式会社 古城智代さん
「組合員さんと直接お会いすることがなかなかないので、組合員さんの生の声が聞けて嬉しいです。次回の企画にぜひ活かしていきたいです!」



キラキラ光るきれいなビーズのネックレス、モコモコかわいいモールでできたわんちゃん:「作りたいな」って思っても、自分ひとりで作れるか自信がなくてなかなか挑戦できない」という声から、生協の頒布会のカタログ『手作りKITのお店』を出されている清原株式会社さんを講師にお招きし、モール工作・ビーズアクセサリー作りの講習を行いました。



かわいいでしょ☆
みんな表情が違います!!

「これであつてる??」と戸惑う組合員さんには講師の古城さん・宮本さんがやさず丁寧にフォロー。作品が



キラキラきれい☆
さっそくつけてみます!!

完成に近づくとつれて、不安な声から「あーなるほど!!」できたできた!!」の声に。「夏休みの工作に」とモール工作に参加した小学2年生の女の子もお母さんと一緒に、無事上手く完成させることができました。完成した作品を手にみんなニコニコ。「先生がそばについて下さっていたので何でも聞いて心強かった」「一人で作ったら気がめげそうだけど、みんなと一緒にしたら楽しいね!!」「また家でも作ってみようかな」という楽しい声飛び交っていました。

※「手作りKITのお店 (あきふゆ10月号)」は10月1回の注文書までです

7月2日 さだ地域活動委員会 参加25名

生で食べられる!?

紀ノ川農協 とうもろこし収穫体験



生産者の畑さん(前列右端)の畑で収穫

夏の風物詩、『とうもろこし』。『とうもろこしってどのよう育てられているの?』『採れたてのおいしさを味わってみたい!!』そんな思いを胸に紀ノ川農協へお邪魔し、とうもろこしの収穫体験を行いました。

まず畑に着いてびっくり!! 1つの幹にいくつも実ができておっしゃっていましたが、実際は2〜3個しか実をつけないのです。それも、栄養分をいきたらせるため1番上の実だけを残り、他の実はヤングコーン等として出荷するそうです。

そして食べてみてびっくり!!

また、とうもろこしを家で食べた組合員さんの息子さんは、「口にすると」「めっちゃ甘い!!おいしいな!!とうもろこしってこんなに味違うねんな」と芯を吸いながら感心していました。

（さだ地域活動委員会の活動報告書より抜粋）

とうもろこしが生で食べられるなんて...そのおいしさに再度びっくりさせられました。

収穫が終われば葉や茎の部分は土の栄養分となるので畑にすきこみ、冬に向けて白菜の栽培がスタートします。

暑い中ではありませんでしたが、お土産のとうもろこしを思い出して、野菜を食べたい」「また参加したいな」など参加されたみなさん爽やかな笑顔で思い思いの感想を口にされていました。



黄色い粒がぎっしり!!

組合員活動では「食」「平和」「環境」「へん」など、さまざまなテーマで各地域が多彩なとりくみを行なっています。

7月24日 住吉地域活動委員会 (大阪市) 阿倍野組合員会館 参加45名 (うち子ども17名)

夏休み親子クッキング ~おうちでも、また料理してみたい!!~

毎年、住吉地域で開催している人気の「親子クッキング」。今年も夏休みの初めに、たくさんの組合員さん親子が集まっていただいた「生協の食材を使ってみんなで調理し、楽しく食べて食の大切さに気付きあう取り組みにしたい」と開催されました。

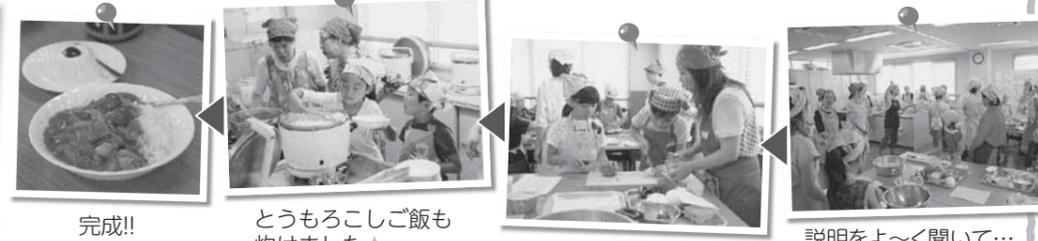
お揃いの赤いバンダナをつけた委員さんたちが、グループごとの材料準備やレシピの用意など会場準備を進める中、13組30名の親子(おばあちゃんも参加も)が集合。

メインには、旬のとうもろこしを入れて炊いた「とうもろこしご飯」、野菜ごろごろ「夏やさいのカレー」を。デザートには、すりおろした人参を使った「ニンジンケーキ」や、夏にぴったりツルルン「ヨーグルトゼリー」を協力し合いながら作りました。家では「超大急ぎで料理するので、子どもに手伝わせていない」というご家庭が多い中、この日はやはり子どものペースに合わせて包丁さばきや料理するのを手伝いながら見守ります。

料理したことがある子も、初めての子も「楽しかった、おうちでもまたやってみよう」と、ニコニコ顔でした。

孫との楽しい時間を過ごすことができました。「今日は本当に楽しかった!!始めて包丁が思う存分使えたよ」と孫も嬉しそうに話していました。

今まであまり台所のお手伝いをさせたことがなく、少しでも興味を持ってくれたらと思いましたが、人参の皮むきと、ケーキを混ぜるのを子どもがしていたので、家でも少し手伝ってくれたらいいと思います。



完成!! う〜んおいしそう♡
とうもろこしご飯も炊けました☆
うまく切れるかな?
説明をよ〜く聞いて...

7月29日 交野南地域活動委員会 参加17名 (うち子ども6名)

親子で交野の戦跡めぐり



禁野火薬製造所跡のトンネルをくぐる

地元交野市にも戦争の爪痕があることを知り、子どもと一緒に平和のことを考えたいと、語り部さんの案内で戦跡をめぐり学びました。

妙見坂小学校で校長も勤められた語り部・辻さんの、やさしい語りの中には、当時の悲惨な様子が感じ取れました。私市にある「大阪市立大物理学部付属植物園」は、1931年の満州事変以降、満州国を作るために日本から開拓民を送る訓練場があったところ。「満蒙(まんもう)開拓青少年義勇軍」として大阪から送り出された13歳から18歳の青少年(2000人以上)は、私市で2週間の初期訓練。さらに2カ月間、開墾や農業・銃剣術の訓練までも教え込まれました。満州に送り

このほか、星田の旧香里工廠への「鉄道引き込み線」があった道路や、枚方・香里団地の妙見山の煙突(砲弾などの兵器用火薬を製造する工場跡)もまわりました。

参加者は「植物園はお祭りなどで来る場所です。地元でもなかなか知らないの、学べて良かった」「歴史を知って伝えていかなければ、廃れていくし、無かったことになりかねないと思った。子どもにも伝えていきたい」と感想をだされていました。

込まれた後は慣れない土地で農地開拓をし、終戦までに2万人以上が亡くなり、また、捕虜として捕らえられた歴史が。戦後には、引き上げて帰ってきた人たちが「生活するための農業」を学ぶ訓練所になりました。

植物園にある樹齢100年近い「クスノキ」。この木の下で子どもたちが、さまざまな訓練を受けていた



植物園にある樹齢100年近い「クスノキ」。この木の下で子どもたちが、さまざまな訓練を受けていた